

国内ビリヤードの活況については、地域差の拡大から、組織全体として全国規模で取り込まれるべき事業の展開に於いて、各地域別加盟団体による参画状況の偏りを解消して、負担の公平性を確保することが困難となっており、全体的には停滞している。各種目別加盟団体による活動の運営基盤の確保が容易ではない状況も重なり、国際的な組織の一員としての貢献に余力を投じることが難しい状態となっている。一方、競技・スポーツを扱う組織としての認知を得て国内外でのその立場を維持する為の要件は多岐にわたり拡がり、対応すべきタスクが増大している。このような状況にありながらも、組織の中央競技団体に位置する本部の役割としては、組織全体が協調の下で機能することを目標に、内外の状況変化から浮上してきた諸問題を解決すべく、少しずつでも着実に改善を重ね、今後の発展を可能にする基礎を構築していかなければならない。現行の組織構造に於いて本部としての取り組みがその成果を得るには、社団を構成する社員である本部正会員による、係る目標に即した参加が必要不可欠であり、従来構造に基づく傘下店舗会員を主たる組織基盤とした地域別加盟団体からの支援、種目別加盟団体と所属選手会員からの協力、それぞれの立場と利害を超えた可能な限りの調整努力、加えて、各賛助団体から登録会員の愛好者に至るまでの幅広い応援を賜り、以って全国組織としての発展に繋がるよう、冒頭に要請の辞を記させて頂くものである。

1 組織の改善に向けた段階的な取り組み

持ち越しとなっている普及活動拡充・競技体制整備・組織基盤整備の3大項目の中長期計画の策定に取り組む。外部有識者の知見や一般会員の提言を参考にしたプロジェクトチームによる仮策定から、組織全体が認識共有できる内容での最終的な確定に至るまで、工程管理の下で再始動にあたる。

その他、組織全体が機能すべく、地域や種目の別を超えた視点で解決されるべき課題、時流に即した対応が求められる課題、過去の経緯や各組織の利害関係が絡んで解決が困難な課題、本部を含めた各組織の役割分担が不明瞭なまま放置されている課題について、本部理事会にて俯瞰的な立場で逐次の検討を行い調整と整理の主導にあたる。

IOCを頂点に連なる国際組織に組み込まれた中央競技団体の責務として、スポーツ組織の統括団体に求められるインテグリティ(高潔性)を決して失うことなく、社会的な認識と評価を伴ってその地位が確立されるよう、ビリヤード競技の活性化が実現されなければならない。この趣旨に沿うべく、協会組織の本部は、スポーツ庁が策定した中央競技団体向けスポーツ団体ガバナンスコードに基づき、

- ・組織中枢としての健全性と適合性が確保され得る運営体制の構築(整備と改革)
- ・組織全体として求められる機能が効率的かつ適正に実現される制度の構築(基盤と連携の見直し)

に関して、遵守すべき必須項目について段階的な取り組みを行い、計画と履行状況を公開する。

スポーツ組織を形成する傘下団体に求められる原則と規範を示した一般スポーツ団体向けスポーツ団体ガバナンスコードへの段階的な対応を傘下に促し、組織全体としてのグループガバナンス形成を主導する役割が中央競技団体には求められる。組織全体として求められる基本的な事業の機能と役割が適切かつ効率的な役割分担の下で遂行され得る体制を目指し、収支構造を含めた組織機能の再整理と最適化に取り組む。昨年度から引き続き加盟団体分担金の設定を見直し、来年度より段階的な施行に入る方針である。

2 普及について

地域密着の普及活動については、地域別加盟団体の主導による積極的な活動を要請し、普及事業振興協力金によるサポートを継続する。団体や個人からの支援が活用できる体制の整備も視野に入れる。普及委員会の部会が管理する部門から、本部で臨機応変に対応し得る普及に繋がる内容に至るまで、都度の適切な判断に於いて可能な範囲の対応を積み重ねる方針。

生涯スポーツとしての普及活動

- ・高齢化社会に見込まれる需要に対応し得る支援体制の整備と構築を視野に、加盟団体による協力と賛助団体による支援の下で、自治体や公共高齢者施設等からの要請に対する都度対応を継続。

ジュニア世代への普及活動

- ・スポーツの日の体験型中央競技団体記念行事「スポーツ祭り」への参加。
- ・公共児童施設などの要請に応じた普及環境整備への協力。用品類の貸与・贈呈・保守の継続。
- ・キッズビリヤード部会が担当する普及活動に対する評価を踏まえた支援の管理。
- ・地域別加盟団体が実施する学校教育参画への試みに対するサポート体制の検討。

障がい者スポーツとしての普及活動（パラビリヤード）

- ・イベントの試行的開催・自主的な地域活動への協力などで臨機応変に対応。持続可能な経営基盤の確保を前提にした適切な形態を模索しつつ、今後の普及様式の確立を目指す。

全日本学校対抗選手権大会・日本学生選手権大会

- ・参加選手の地域的な偏りが課題となっていた日本学生選手権は、特設会場開催に於ける採算割れが調整の限界を超えた為、本年度の開催を中止する。昨年度の開催を以って一旦打ち切り、刷新した内容での青年層対象の普及イベントの早期開催を模索する。
- ・全日本学校対抗選手権大会に関しても、地方からの参加状況と事業の収支状況を参照した再点検を実施。本年度に於ける開催を含めた結論を前半期までに決定する方針で、主管との調整にあたる。

全国アマチュアビリヤード都道府県選手権大会（国スポ記念大会）及びデモスポ

- ・国民スポーツ大会の抜本的な見直しと改革に即した、協会組織による対応可能性の調査と確認。
- ・青森県協会のデモスポ開催の後援に係るサポート。
- ・開催を希望する都道府県組織に対する担当役員による後援と指導の継続。
- ・宮崎県での全国大会開催の見送りに伴い、来年度のデモスポ開催に備えた後援と指導を継続。
- ・長野県・群馬県・島根県に於ける全国大会及びデモスポの運営主管の設立可能性の追跡。

3 強化について

加盟国際統括組織による主要国際大会への代表選手の派遣

JOC 委託選手強化 NF 事業として JSC 競技力向上事業助成の下、以下の大会への選手派遣を予定。アジアインドア&マーシャルアーツゲームズについては、選手 9 名と帯同スタッフ 2 名の選手団を派遣する予定。助成外経費に協力金から積み立てた特定費用準備資金（公益充実資金）を充当。

- ・ジュニアスリークッションアジア選手権 2026・未公表・未公表（2026年5月予定）
- ・アーティスティック世界選手権・トルコ・6/17~6/20 *派遣及び補助の内容について点検中
- ・女子スリークッション世界選手権・フランス・9/15~9/17
- ・ジュニアスリークッション世界選手権・フランス・9/18~9/20
- ・スリークッション世界選手権・フランス・9/23~9/27
- ・スリークッション世界選手権国別対抗戦・未公表・未公表（2027年3月予定）
- ・ジュニアスリークッションアジア選手権 2027・未公表・未公表（2027年3月予定）
- ・9 ボール世界選手権・未公表・未公表
- ・女子 10 ボール世界選手権・イタリア・7/31~8/6
- ・ジュニア 9 ボールアジア選手権・未公表・未公表
- ・10 ボール世界選手権・ベトナム・9/19~26
- ・女子 9 ボール世界選手権・インドネシア・9/28~10/5
- ・ジュニア 9 ボール世界選手権・未公表・未公表
- ・6 red スヌーカー世界選手権・バーレーン・7/12~7/26
- ・スヌーカー世界選手権・インド・未公表（2026年11月予定）

- ・WCBS チャンピオンシップ・カタール・10/14~10/18
- ・アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ・サウジアラビア・12/13~12/21

JOC ジュニアオリンピック大会

全日本ジュニア 9 ボール選手権大会を次世代の国際レベル育成強化事業に位置づけ、冠名 JOC 名義による後援の下で開催。

強化関連事業に於ける支援の適正確保

強化事業に於ける公金助成への依存度を下げる必要に迫られる状況に鑑み、本部支出の負担が重い選手強化 NF 事業の内容について、随時の適宜見直しを実施して対応する方針。必要に応じて専門機関を設置する。強化事業は中央競技団体の存在意義を問われる重要部門であるが、普及事業とのバランスが配慮されねばならない。収支全体による制約やプール・キャロム・スヌーカー3 種目間の調整を考慮に入れた施策決定が必要となる。

主要総合国際大会に向けた準備

下記、来年度以降の主要総合国際大会参加に備え、収支計画等を含めた対策を検討。

- ・2029 アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ・アルマトイ、カザフスタン（予定）
- ・2029 ワールドゲームズ・カールスルーエ、ドイツ
- ・2030 アジア競技大会・ドーハ、カタール

4 国内大会事業

大会主催

- ・全日本ジュニアナインボール選手権大会・神奈川・4/5
- ・全日本アマチュア四ツ球選手権大会・東京・5/23~5/24
- ・全日本スヌーカー選手権大会・東京・6/6~6/7
- ・全日本アマチュアナインボール選手権大会・兵庫・6/27~6/28
- ・全日本バンド選手権大会・東京・7/4~7/5
- ・全日本カードル 47/2 選手権大会・愛知・9/12~9/13
- ・全日本アマチュアカードル 42/2 選手権大会・福岡・10/17~10/18
- ・全日本女子四ツ球選手権大会・未定・未定（2026年11月予定）
- ・全日本アマチュアスリークッション選手権大会・大阪・10/31~11/1
- ・全日本アマチュアバンド選手権大会・愛知・12/5~12/6
- ・京都オープン・京都・未定（2027年2月予定）
- ・全日本ジュニアスリークッション選手権大会・東京・未定（2027年3月予定）
- ・全日本女子スリークッション選手権大会・東京・未定（2027年3月予定）
- ・全日本スリークッション選手権大会・東京・未定（2027年3月予定）
- ・全日本学校対抗ナインボール選手権大会・東京・未定（2027年3月予定）

大会共催

- ・全日本アマチュアポケットビリヤード選手権大会・愛知・11/28~11/29
- ・全日本選手権大会（プール部門）・兵庫・11/17~11/23

大会公認

従来施策に基づくカレンダー掲載と紐づいた公認格付与に並行し、大会格付けと本部及び傘下組織による大会関与加形態に関し、必要に応じた随時の見直し修正を行う方針。

5 アンチ・ドーピング活動

アンチ・ドーピング規則は、普及から強化に至る全ての選手と競技とスポーツに携わる全ての関係者を対象に、原則と階層毎の義務が定められており、現行世界基準 CODE2021 から大規模改訂が予定される CODE2027 への段階的対応が更に必要となる。競技ビリヤードの現状としては、受動と能動の両面から成る組織内部の取り組みと、成果となる認識共有の達成が不十分であると評価されており、体質の改善にはあらゆる選手と関係者の協調が必要不可欠な状況となっている。検査に至る前の啓蒙教育が重要視される流れに於いて、周知を目的としたアンチ・ドーピング委員会による受動的な習得機会の整備とアスリート委員会による能動的な活動の両方を備えていることが、競技としての社会的な認知を得る要件となる。これに適合すべく、JADA と WADA による公式ツールを利用した、組織全体が意識を共有して対応できる、実効性を備えた体制の段階的構築を目標としたプロセスを理事会主導の下で検討していく方針である。

6 広報について

広報媒体の整備

- ・公式ホームページに於ける実用的な機能の確保を見据えたインターフェイスの整備を随時に実施。
- ・紙媒体の協会組織案内冊子の改訂に関する、実用性と必要性を勘案した検討。

寄付及び協賛について

スポーツ組織は助成に依存しない体質を構築すべく財政基盤の強化を求められており、組織維持の命運が自助努力による取り組みに委ねられる流れにあることを踏まえ、ホームページ内に設置した寄付協賛の窓口を有効活用すべく、個別の本部事業に於ける資金確保も念頭に置いた、幅広く支持される積極的な働きかけの可能性を模索する方針。

7 CS 会員登録について

会員登録システムのブラッシュアップ

刷新後の CS 会員登録管理システムが協会組織内でスムーズに活用できるよう、各傘下加盟団体に於ける管理状況を確認しつつ、組織全体での操作スキルの共有や本部を含めた事務処理で賄いきれない要素について、費用対効果を考慮した機能性・操作性・利便性を向上する為のブラッシュアップを適宜に実施する。

会員登録制度の点検と随時見直し

協会組織全体の構造や実態に即し、傘下加盟団体に於ける運用状況を確認しつつ、現行制度の内容と運用に関して最適化が為されるよう適宜の見直し検討にあたる。

8 各種委員会などによる活動

所掌する専門分野を各種委員会に委ねて業務の効率化を図る。必要に応じて再編整備を実施。

アンチ・ドーピング委員会

役員改選を機に再編。アンチ・ドーピング活動の運営管理に携わる組織機能の拡充にあたる。

アスリート委員会（要設置）

スポーツ団体ガバナンスコードが定める大原則に基づき、早期の設置に向けた対応を進める。JOC アスリート委員会と連携し、組織全体に必要な機能であるアンチ・ドーピングの取り組みや普及・強化・国際交流・社会貢献などの運営に携わり、その為に必要な提言をアスリートの目線で挙げる機能を備えた委員会。組織との条件交渉により業務を受託する存在ではなく、組織に於ける適切な機能の担い手として共生する立ち位置が、委員会設置の理念として要求される。

協力金実行委員会

現時点の管理運用体制を継続。より適正かつ効果的な協力金の運用を実現する為に、必要な応じた規定類の整備を理事会が担い、安定的な機能の確立を目指す。

公認レフリー・コーチ制度委員会（休止中）

休止中。旧アジア統括組織 APBU を権威の拠り所として実施した国際レフリーライセンスの取得プログラムに於けるライセンス既得者に不利益が生じないよう配慮しつつ、国際的な基準に準ずるレベルを備えた国内公式ライセンス制度の構築に向けた中長期的な施策を模索する。

普及推進委員会（要設置）

普及関連の部会による活動などの普及活動全般を俯瞰的な視点で見渡し、統括管理する機能を体制整備する必要がある。

キッズビリヤード部会

本部主催事業としてキッズ世代への普及活動の実践にあたる。地域普及活動のモデルケースとして、首都圏を中心とした現在のローカルな普及活動から得たノウハウが各地域の普及活動に還元され、全国的な普及活動の発展へと繋がることを目標とする。係る将来の目標を見据えた活動状況の評価を理事会で実施する方針。

ジュニアプール部会・ジュニアキャロム部会

ジュニア世代の普及から育成強化に至る施策内容の適正化と整合性確保に係る全般を担当。

パラビリヤード部会

自主活動に対する後援を審査する。将来的な能動的な活動に向けた機能整理と体制整備を目論む。

国スポ担当役員による活動

理事会が主導した事業方針に基づいて、理事会と連携して国体関連事業全般の推進と遂行の管理を担当。地方組織との間で必要な調整と支援にあたる。実行可能な都道府県に於ける国スポ記念大会、及び全都道府県での開催を継続するデモスポ競技について、都道府県組織設立を含めた進捗の管理にあたる。

広報委員会

ホームページについて、内容整備に先立ち必要となる媒体整備の技術面を専門的に担う方針。

ルール委員会

ルールに関する適宜見直しを実施。ホームページ上で公開。

倫理委員会・コンプライアンス委員会

インシデント発生時に都度対応して理事会内に設置される体制を維持。

助成金審査委員会（休止中）

協力金助成以外の本部補助の適正確保を担う機能は理事会が主導して代行中。

選手選考委員会（休止中）

強化事業に於いて、国際大会等の派遣選手選考過程には正当性と透明性の確保がガバナンスコードの遵守事項の重要項目と定められている。規約化が必要な対象について対応を進める方針。

役員候補者選考委員会（要設置）

中央競技団体ガバナンスコードの定める原則に基づき、早期設置を予定。